

未来ひだか

みらくる



2013年4月

日高農業改良普及センター

この日高に「担い手が残る、残れる」農業を 皆さんと ともに創りあげていきましょう！

平成25年度から日高農業改良普及センターは本所15名、東部支所4名、西部支所8名の27名になりました。

職員一同、地域の農業者とともに新たな日高農業が確立できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

普及センターはマンパワーを活かし①消費者に信頼される安全安心な「食料」と農業の持続的な発展に向けた取組み②「環境」と調和した農業生産に向けた取組み③多様な「担い手」の育成・確保と農業経営の体質強化④豊かな資源と創意工夫を活かした「地域」づくりを支援していきます。

関係機関・団体（試験研究機関、振興局、町、JA等）と連携を図り、地域の重要で緊急な課題に取り組み、平成25年度は地域21課題、広域5推進事項の課題解決に向けて取り組んでいきます。技術の組み立て実証を通じた活動や経営経済的視点を重視した普及活動を進めていきます。また、引き続き、専門を含めた広域活動を進め、地域農業の維持・活性化を支援していきます。

平成25年度 日高農業改良普及センター活動体制



参考にしよう！地域の活動事例

～詳細は日高農業改良普及センターホームページで紹介しています～

アドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

トマトの労働力低減に向けた取り組み

【日高町】

日高町日高地区では「高齢になっても楽しく、生きがいを持ちながら続けられる農業」を目標にトマトの労働時間の低減に向けた栽培方法に取り組みました。

普及センターは、労働力低減が可能な栽培方法の提案と導入支援を行いました。また地域内農業者への研修会や検討会を通し、取り組みを紹介しました。

平成24年度は栽植様式を変更し、定植・管理・収穫作業に要する作業動線を減少することができました。作業動線の減少により、身体的負担が緩和され、作業スピードも上がり適期に作業が行えた事で品質・収量向上にも繋がりました。

今後、日高地区では栽植様式の変更のみならず、個々の農家に対応した労働力低減・身体負担の軽減に向けて取り組んでいきます。



1条植えの様子



地区内の研修会



検討会

デルフィニウム・エラータム系の生産性向上～越年作型技術の改善～

【新ひだか町三石】

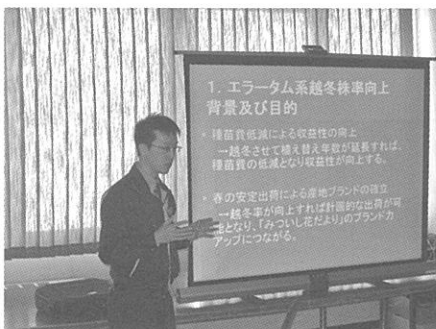
みついし花き振興会（新ひだか町）では、種苗コスト低減・出荷本数の増加をめざして八重咲きのエラータム系で越年作型に取り組んできましたが、株が枯死するという問題を抱えていました。

問題解決に向け、関係機関一丸となって原因の究明、栽培技術を検討した結果、土壌水分確保の重要性が判明し、かん水技術の改善に取り組みました。秋の採花終了後も葉水が上がる程度に適宜かん水を実施することによって、土壌中の水分が維持確保されて越年株数が増加し、春期の出荷本数が平成23年春の126%になるという、嬉しい成果があらわれました。

今後も、技術の定着・収益性の向上のため普及センターは一体となって活動を支援します。



越年後も順調なデルフィニウム・エラータム系



講習会で土壌水分の重要性を説明



JAと共に原因究明

強害雑草「メドウフォックステイル」増加草地の更新を支援

【浦河町】

日高東部地区では、農協出資による有限会社優駿サポートが、草地の簡易更新を請け負うコントラクター事業を行っています。普及センターとJAが協力して草地の植生調査や更新時の技術アドバイスを実施しており、平成24年は44haの更新・追播が行われました。

また、当地区ではイネ科の強害雑草「メドウフォックステイル（MFT：黒穂）」が問題となっています。平成24年にはこのMFTに浸食されつつあるいくつかの草地においても、除草剤の体系処理と、コントラクター組織所有のは種機の利用を組み合わせることで植生改善が図られています。



優駿サポートの簡易更新機



MFTが多い草地に簡易更新機では種された草地



注目！地域の話題コーナー

がんばる！新冠町農業支援員

【新冠町】

新冠町では平成23年度から総務省の地域おこし協力隊事業を活用し、農業支援員が採用されています。農業支援員は町外からの農業への新規参入を視野に、日常は農業ヘルパーとして協力農家の農作業に従事しながら、3年間で農業技術を実践的に身につけることを目的としています。

受入農家をはじめ、支援員の生活する地域の皆さんは、新たな担い手の定着に大きな期待をしています。



ピーマンの栽培指導を受ける農業支援員

寒締めほうれんそうの生産拡大をバックアップします！

【平取町】

平取町の寒締めほうれんそうは平成18年3戸により生産が始まりました。

平成24年度は生産者が30戸に増え、12月から3月中旬まで約5,000ケースを出荷しました。

普及センターは栽培ハウスの温度測定や栽培基準の作成を行い、地域の皆さんと一緒に甘くて柔らかな冬の野菜の生産拡大を応援しています。

寒さにあたって
おいしさUP！



おいしい野菜は
各地で人気者

未来ひだか

みらくる



2013年4月

日高農業改良普及センター

この日高に「担い手が残る、残れる」農業を 皆さんと ともに創りあげていきましょう！

平成25年度から日高農業改良普及センターは本所15名、東部支所4名、西部支所8名の27名になりました。

職員一同、地域の農業者とともに新たな日高農業が確立できるよう努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

普及センターはマンパワーを活かし①消費者に信頼される安全安心な「食料」と農業の持続的な発展に向けた取組み②「環境」と調和した農業生産に向けた取組み③多様な「担い手」の育成・確保と農業経営の体質強化④豊かな資源と創意工夫を活かした「地域」づくりを支援していきます。

関係機関・団体（試験研究機関、振興局、町、JA等）と連携を図り、地域の重要で緊急な課題に取り組み、平成25年度は地域21課題、広域5推進事項の課題解決に向けて取り組んでいきます。技術の組み立て実証を通じた活動や経営経済的視点を重視した普及活動を進めていきます。また、引き続き、専門を含めた広域活動を進め、地域農業の維持・活性化を支援していきます。

平成25年度 日高農業改良普及センター活動体制

【本所地域班】

山黒所長	木戸次長	活動エリア	責任者	担当者
		新ひだか町	竹岡調整係長	浅石主査、松田専普 木元調査員
		新冠町	鈴木地域係長	川田主査、高田専普

【東部支所地域班】

大久保支所長	活動エリア	責任者	担当者
	浦河町	高田地域係長	嵯峨専普、三宅専普
	様子町		
	えりも町		

【西部支所地域班】

村井支所長	活動エリア	責任者	担当者
	平取町	松浦地域第1係長	佐々木主査、小柳専普 斯波専普
	日高町	村瀬地域第2係長	中道専普、福原専普

【本所・支所広域班】

江田主任 普及指導員 農業革新支援専門員	活動区分	責任者
	人材育成	山腰主査
	情報・クリーン・有機	宮部主査
	生産合理化・組織化	小林主査
田口主任 普及指導員 農業革新支援専門員	高付加価値化	佐藤主査
	畜産	浅石主査
	軽種馬	川田主査
	園芸	佐々木主査

